

# ダークツーリズムと地域イノベーション

追手門学院大学  
井出 明

## はじめに

筆者は数年来、ダークツーリズムの研究を行なっている。ダークツーリズムとは、戦争や災害の跡などのいわゆる負の遺産を観光対象としてめぐる旅であり、そこで無くなった人々の死を悼み、悲しみを共有しようとする営みである。したがってダークツーリズムの対象地となる所は、悲しみや悲劇の記憶を有した土地となる。

通常、こうした悲劇の場は、人々が敬遠してしまう結果、必然的に経済的価値もあまり高くないと考えてしまうことが多い。しかし、国内外のダークツーリズムポイントを丁寧に見ていくと、悲劇の場であるが故に、ダークツーリズムによってその地に新しい価値が与えられ、見事に生まれ変わることも多い。この現象は、地域にイノベーションが起きていると考えることも出来る。本稿では、ダークツーリズムを地域イノベーションという観点から再考する。

## 1. 従来のイノベーション論と地域イノベーションの考え方

イノベーションの概念が提唱されてから 100 年ほど経つが、これまでのイノベーション研究は、部門ごとに行われることが多かった。進化経済学会ハンドブックにおいても、理論的な概況について考察がなされた後、商品や技術、そして社会制度などの具体例に論が展開している。

この考え方自体には何らの問題もないが、観光研究を行なっていると、個別の部門を超越した、「地域のイノベーション」という考え方が成り立ちうることに気づく。

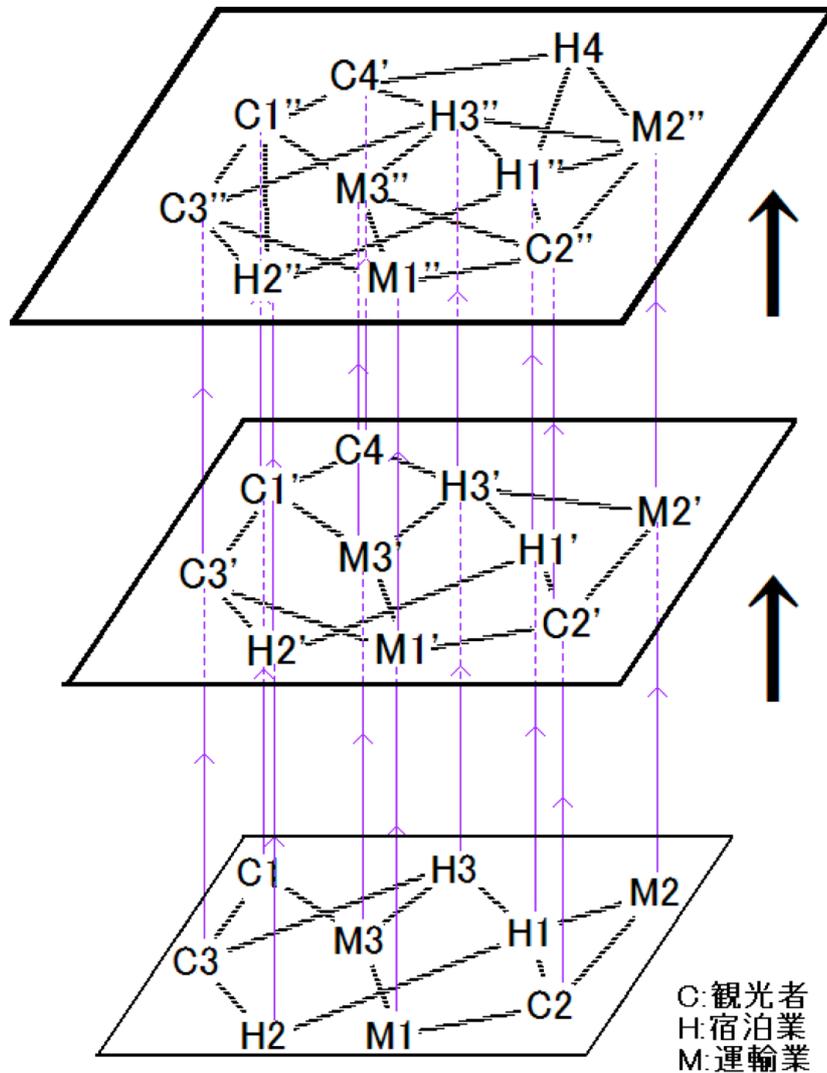
この「地域イノベーション」という考え方には、もちろん多くの先行研究が存在している。

浜松信用金庫と信金中央金庫総合研究所が編んだ『産業クラスタート地域活性化 地域・中小企業・金融のイノベーション』は、浜松を題材とした工業関係のイノベーションについて詳しい考察を行なっており、現実の地方都市のイ

ノベーションを考える上で興味深い。“動け！日本タスクフォース”による『動け！日本 イノベーションで変わる 生活・産業・地域』でも、日本各地に先端イノベーションの芽が存在することが紹介されている。さらに、内田純一『地域イノベーション戦略 ブランディングアプローチ』では、国内のみならず、外国の諸地域についても多く言及されている。但し、これらの論考は、まだ部門別のイノベーションの例を取り上げている段階であり、産業横断的な地域イノベーションについては十分に言及されていない。

産業横断的な地域イノベーションを扱った例としては、橘川武郎・連合総合政策開発研究所編の『地域からの経済再生 産業集積・イノベーション・雇用創出』が興味深い。特に同書は、イノベーションとまちづくりの関係にも言及しており、先駆的な研究書といえよう。また、太田房江知事時代に大阪府がまとめた『起業家精神と地域産業イノベーション 大阪経済・労働白書 平成 16 年版』も、大阪のもつポテンシャルを鳥瞰的に捉え、イノベーションの可能性を探っている。

前段落二著に共通している考え方は、地域に散在する知恵や知識を統合して、地域全体に波及するイノベーションを起こそうとする思想である。この考え方は、当然、観光イノベーションにも応用でき、宿泊施設・飲食・土産物店が相互連携することで、地域としての新しい価値を生み出すという展開が考えられる。但し、観光による地域イノベーションの場合、外部からの来訪者が重要なステークホルダーとなる。地域の内部に居るステークホルダーと、外部から訪れた来訪者との間で情報がやり取りされる結果、地域全体のイノベーションが起こりうる。この状況をモデルで説明したものが、2007年に初めて報告した図1である。このモデルでは、各ステークホルダー間における情報のやり取りを重視している。図は、地域社会を構成する観光に関連した各主体(ステークホルダー)が相互に情報を発信・受信することで、各個体の変化はもちろん、個体が構成する地域社会全体を新しいシーンに変化させていくというモデルである。この考え方は、近年の情報の流通量の増加に伴って変化しつつある観光産業を理論的に説明できる。



このモデルは発表後、5年を経た今でも通用すると考えられるが、今回はダークツーリズムの観点から、地域イノベーションを考えている。ダークツーリズムは、理想的には商業的な成功を直接の目的としないため、観光“産業”をベースとした前述の図1のモデルはそのままでは使えないことになる。そこで次章では、ダークツーリズムの考えに基づいて地域イノベーションを考えた場合、地域の発展モデルがどのようなものになるか具体的に考えてみたい。

## 2. ダークツーリズムから考える地域イノベーション

通常ダークツーリズムの対象地は、戦争なり自然災害なり、何らかの負のインパクトを受けている。したがって、その地の価値はブランド的にも、おそらく経済的にも低下しているはずである。しかし、現実には、国内における原爆ドームやひめゆりの塔はもちろんのこと、世界的に著名なアウシュビッツやザクセンハウゼンは、来訪に値する大きな価値を有している。換言すれば、ダークツーリズムが地域の価値を高めていると考えることも出来る。負のインパクトが、その地に訪問の価値を生み出すとともに、その帰結として当該エリアの価値を上昇させているが、この現象についてモデルを用いて考えてみたい。

### ・フェーズ1

負のインパクトが発生した直後は、個人レベルの悼みの来訪が主たる訪問者の内実を構成する。この時期は、現地の人々の心理的傷も大きく、外からの来訪者を受け入れる準備が出来ていない。また、“観光”という営為自体、平和でないと成り立たないため、未だ悲劇の記憶が濃い時期に該当地を訪れる人々は、極めて個人的な事情で訪問することとなる。

この時期の訪問者は内的な啓発を受け、その人自身の中で何らかのイノベーションが起きている可能性が高いが、この段階ではこうした“革新”の体験は共有化されず、地域全体に何らかの動きが起きているわけではない。

また、少数の訪問者の“悼む行為”は、インパクトを経験した地域において単に瓦礫として認識されていた物体を、何らかの意味のある存在に変える可能性を持つ。つまり、居住者にとって価値がないと思われていたモノが、訪問者という外的刺激によって、それ自体の持つ意味を変化させはじめる。

### ・フェーズ2

次の段階では、該当地における悲劇の価値が認知され、該当地の保全とその価値の発信が行われるようになる。この保全と情報の発信は、不可分一体の営みとなっている。なぜなら保全にはコストがかかり、地域の負担だけではカバーしきれないこともままある。その場合、外部からの寄付を集めたり、外部からの高い評価を得ることによって、公的資金の投入を可能とする流れを作り出すことも考えられる。

並行して訪問者と地域住民、そして訪問者間には、ダークツーリズムポイントとして当該地域が持つ特別な価値が意識として共有され始める。これまで点として存在していた悲しみや悼みが、人間関係のネットワークの中で線や面と

して出現してくる。

### ・フェーズ3

保全により、観光対象の毀損の心配がなくなれば、その次の段階では当該地域のプロモーションが行われるとともに、アクセスの改善が見込まれる。多くの人が訪れるためには、「陸の孤島」のようなところであってはならず、プロモーションとアクセスの整備はシンクロすることが期待されよう。

### ・フェーズ4

さらに次の段階では、ダークツーリズムポイントとして有していた価値が、美しい景観や農産物などの別の観光資源となりうる価値と結合し、さらに地域の価値を高めていく。ツーリストの滞在を長期化させたり、ダークツーリズム以外の観光形態を好むツーリストが、副次的にダークツーリズムを享受するというパターンも生じることになる。

### ・フェーズ5

最終段階では、著名となったダークツーリズムポイントが、他の同種のダークツーリズムポイントと悲しみを共有し、ローカルな地域を越えたより高次の価値を持つことになる。この段階に至った地域では、すでに別の場所で同種の悲劇の経験を有する者が訪問するようになり、広い“連帯”を醸成するようになっている。これは国境をまたぐことも珍しくない。

言い換えれば、地域が経験した悲しみに、人類普遍の価値が見出されている状況であると言って良いであろう。

このように、インパクトを受けた地域では、ダークツーリズムの展開によって、被害発生前の地域とは異なった価値を生み出している。これは、単なる復旧や復興ではなく、まさに地域としてのイノベーションが起こっている。

## まとめにかえて

以上が、今回提示するダークツーリズムと地域イノベーションのモデルであるが、本稿は学会発表のための試案であり、広く批判を賜りたい。

(注) 現代の情報化社会における特有の現象として、上記のモデルが実際に社会において確認される際は、SNSなどを通じて驚異的な速度で作り上げられていくことが予測される。SNS出現以前の社会と異なり、SNSでは同種の志向を持った人々が集まるため、そこで流れる情報は共感を生みやすく、ダークツー

リズムの対象地は従来より早くその価値を確立する。

#### 参考文献

- ・井出明「次世代観光情報システムの目指すべき方向性」『情報処理学会研究報告 EIP, [電子化知的財産・社会基盤]』2006(128), 情報処理学会, pp.99-106 (2006)
- ・動け！日本タスクフォース『動け！日本 イノベーションで変わる 生活・産業・地域』日経 BP 社(2003)
- ・内田純一『地域イノベーション戦略 ブランディングアプローチ』芙蓉書房出版(2009)
- ・大阪府産業開発研究所『起業家精神と地域産業イノベーション 大阪経済・労働白書 平成 16 年版』大阪府(2004)
- ・橘川武郎・連合総合政策開発研究所編『地域からの経済再生 産業集積・イノベーション・雇用創出』有斐閣(2005)
- ・進化経済学会編『進化経済学ハンドブック』共立出版 (2006)
- ・浜松信用金庫・信金中央金庫総合研究所編『産業クラスター地域活性化 地域・中小企業・金融のイノベーション』同友館(2004)